

第21回議会報告会報告書

令和6年1月
広聴広報委員会

はじめに

本市議会における議会報告会は、議会基本条例に基づき初めて実施した平成24年8月を皮切りに、今回で第21回目の開催となった。

今回の議会報告会及び意見交換会“なしおふれあいトーク”は、常任委員会単位での3班体制とし、常任委員会の研究テーマについて各種関係団体との意見交換会として実施した。

那須塩原市議会報告会実施要綱第11条の規定により、議会報告会報告書を本書のとおり提出する。

目 次

はじめに

1

1 第21回議会報告会実施概要

2

2 主な意見及び要望

4

3 考察

13

1 第21回議会報告会実施概要

実施体制について

- 今回の議会報告会は、常任委員会単位で報告会を実施した。
- 各常任委員会委員による3班体制により実施した。
- 対象は各常任委員会が所管する事項に関連する各種団体とし、参加者を増やす方法として相手方団体へ出向く形を打診することとした。

内容について

全体の構成について

- 議会報告会の内容は2部構成で実施した。今回も昨年同様、意見交換に重点を置き実施した。議会報告は簡略化し、スライドではなく、ポイントを絞った報告資料を作成し、参加者に配布した。
- 第1部の議会報告は、定例会議の審査内容を一部抜粋して実施。質疑応答は行わず報告のみとした。
- 第2部の意見交換は、班ごとにテーマを設定して実施した。なるべく多くの参加者から意見聴取できるよう意見交換の時間を多くとった。

会場の設定及び参加者数について

会場設定について

- 相手方団体へ出向く方式も含めて、それぞれの班で会場を設定した。

参加者数について

- 各会場合計68名

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
開催年月	H24.8	H25.11	H26.5	H26.11	H27.5	H27.11	H28.5	H28.11	H29.11	H30.5
参加者数	220	93	89	91	97	60	70	94	62	66

	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回
開催年月	H30.11	R元.6	R元.11	R2.2	R2.7.17~9.30	R2.11	R3.11	R4.5	R4.11
参加者数	78	23	70	152	72	29	97	38	51

	第 20 回	第 21 回
開催年月	R5.6	R5.11
参加者数	24	68

各班の実施状況

1班(※3 か所で実施)

1	開催日時	令和 5 年11月13日(月)午後1時30分～午後3時30分			
	会場	いきいきふれあいセンター			
	対象	黒磯地区自治会長			
	参加人数	30人 (男性28人 女性2人)			
2	開催日時	令和 5 年11月15日(水)午後2時～午後4時			
	会場	西那須野公民館			
	対象	西那須野地区自治会長			
	参加人数	16人 (男性15人 女性1人)			
3	開催日時	令和 5 年11月19日(日)午後2時～午後4時			
	会場	ハロープラザ			
	対象	塩原地区自治会長			
	参加人数	6人 (男性6人 女性0人)			
	担当議員	班長	森本 彰伸	司会者	林 美幸
		記録者	田村 正宏	記録者	松田 寛人
		班員	三本木 直人	班員	齊藤 誠之
		班員	佐藤 一則	班員	平山 武
		班員	金子 哲也		
	意見交換テーマ	自治会活動について			

2班

開催日時	令和5年11月8日(水)午後6時30分～午後8時				
会場	東那須野公民館				
対象	放課後児童クラブ(ゆめがくどう)利用中の保護者				
参加人数	6人(男性2人 女性4人)				
担当議員	班長	益子 丈弘	司会者	星 宏子	
	受付	山本 はるひ	記録	堤 正明	

	記録	相馬 剛	荷物受取	室井 孝幸
	班員	眞壁 俊郎	班員	玉野 宏
意見交換テーマ	放課後児童クラブについて			

3班

開催日時	令和5年11月 15 日(水)午後2時30分～午後3時30分			
会場	那須塩原市役所			
対象	黒磯西那須野塩原観光協会			
参加人数	10人(男性9人 女性1人)			
担当議員	班長	大野 恭男	司会者	小島 耕一
	記録者	山形 紀弘	記録者	中里 康寛
	班員	星野 健二	班員	鈴木 伸彦
	班員	中村 芳隆	班員	齋藤 寿一
意見交換テーマ	観光のブランディング化について			

2 主な意見及び要望

班別テーマについて

1班 自治会活動について

①自治会長の選出方法について

現状

1. 前の人は、長くやってくれて助かった。
2. 自分も含め、現在の役員は長くやっている。
3. 仕事の兼ね合いでは苦労している。
4. 会議等で選挙している。
5. 輪番制で会長を回していたが、固辞する人が多く会議の中で決めるようになった。
6. 年功序列でやっていた。今は会議をもって決めている。
7. 10年前までは現会長が次期会長を指名していたが、今は班ごとの輪番制にし、班内で話し合いや選挙で決めている。
8. 2年満期、自治会の理事会で話し合いの上、人材選出している。
9. 役員会にて候補者選出している。
10. 選考委員会(班長)にて選出、担い手選考に難航している。
11. 前会長より推薦。

12. 一本釣りで次年度候補を探し打診する。
13. くじ引きによる会長選出を模索したが反対意見が多く断念した。

課題

1. 次の担い手を育てられない。
2. 適任だと思われる人ほど、断られる気がする。
3. 高齢であること、仕事をしていることが理由で断られる。よって若い人も高齢者も受けてもらえない。
4. 以前は輪番で会長をまわしたことがあったが、自分の番が来ると自治会を抜けてしまう人が出て、輪番制をやめた。
5. 会長職の負担が大きい。書類の提出、会議の数、当て職の多さが会長を受けない理由になっている。
6. 輪番制は順番が回ってくると自治会を辞める人がいる。
7. 小規模な自治会なので輪番制であるが結果的に同じ人が長期にわたり担わざるを得ない。
8. 役員の高齢化により年々担い手が枯渇しつつある、現役世代の登用が望ましいが現実には厳しいものがある。
9. 近年、国の方針で高齢でも就業する人が増加しており、70 歳台になってから自治会デビューする状況がある。
10. 休日や夜間でなければ役員会等が開催できない。

アイデア

1. 普段の付き合いが大切。
2. 役員みんなで説得している。
3. 自治会役員に若手を入れる努力をする。
4. 元市の職員に次の会長をお願いしている。
5. 交代の際の引継ぎが重要である。

②自治会費について

現状

1. 以前は、寄付や、消防団への寄付を自治会費と合わせて集金していたが、今は自治会費とその他の集金を別として集めている。
2. 今でも寄付も自治会費も一緒に集めている。
3. アパートなどは、大家さんや管理事業者に集金をお願いしている。
4. 所有する土地の面積によって自治会費の負担を上げる資産割にて自治会費を決めている。基本額を 10,000 円として、資産割分を増額としている。
5. 自治会費は 9,000 円前期 5,000 円後期 4,000 円(寄附も含む)。
6. 今は、自治会費を集めていない。以前は 10,000 円集めていた。
7. 代表自治会(結社)大字自治会といって通常の自治会の上部組織があり、負担金を自治会で払っている。
8. 赤い羽根などの任意の寄付を含め徴収している。
9. 寄付を含む5000円の最低限で運営をしている。
10. 自治会に必要なものだけにして、低額にしている。
11. コミュニティが上部にあるため、自治会費は徴収していない(コミュニティ

会費)。

12. 会費については、全額払えない環境にある世帯は減額対応している。

課題

1. 寄付と自治会費を分けると、寄付の金額が減ってしまう。

③自主防災組織について

現状

1. 避難行動要支援者のリストを作っている。
2. 個人情報の扱いには気を遣う。
3. 自主防災組織が中心で防災訓練を行なっている。(炊き出し訓練、初期消火訓練、移動訓練など)
4. 大雨が近づいている時などは、自治公民館に災害対策本部を設置し、浸水が懸念される家などに土嚢を運んだりしている。
5. 非常食を自主防災倉庫に用意している。防災訓練の時の炊き出し訓練において参加者で食べて新しい物を補充している。
6. 組織は作ったが、現状何もしていない。
7. 自主防災組織の役員は自治会の役員が行なっている。
8. 消防署が、防災訓練の指導などで協力してくれている。
9. 以前は自主防災組織をもっていたが、「災害がないからいらない」という声が多くなってしまう。
10. 自主防災組織はないが、避難行動要支援者の情報は自治会長がうけとっていて、管理している。
11. 自主防災組織はあるが、活動はしていなかった。今年から活動を復活し、防災訓練などを行なっている。防災士は自治会内に 3 人いる。
12. 自主防災組織はないが、コミュニティで防災訓練を予定している。
13. 防災訓練として消火栓の場所の確認や、消防署と連携した班単位で参加できる仕組みを構築している。
14. お祭りを利用して防災訓練を行っていた。
15. 集まりにくい世の中だが、年 1 回会報は出している。

課題

1. 西那須野は災害が少ないという認識があり、住民の防災意識の向上が難しい。
2. 自主防災組織の役員の高齢化。
3. 備品が古い。
4. 実際に大雨が降った時や、東日本大震災の時、自主防災組織は何も出来なかった。
5. 自主防災会を組織する意義が解からない。
6. 大きな災害が無いので自主防災会を組織する機運が高まらない。
7. 本日の報告会を機に自主防災会を結成したい。
8. 訓練方法に地域独自の運営手法(組織的に訓練できている自治会は、班ごとに防災サポーターを設置し、福祉的見守りとして機能できる仕組みづくりとして対応している)がある。

9. 他地区はどのような活動をしているのか知りたい。
10. 情報発信の不足。役員の中でも防災組織を知らない人が多い
11. 班長は、毎年替わるので、防災組織の協力は最低限のことしかお願いできない。
12. 子どもが減って、子どもを使って人を集めるのも難しくなっている
13. コロナ禍以降防災訓練で人を集めにくい
14. 防災組織としてどのような活動をすれば良いか分からない
15. 自主防の機運があるが、なかなか着手できない
16. 小さな自主防災組織は不可能(制度が変わって以前の組織はなくなった)
17. 自分の自治会のことで精一杯であり、他地区との連携を検討したことはない
18. 地域住民の防災に関する危機意識の低下
19. コロナで十分な話し合いができていない
20. 組織としてはあるが形骸化している

アイデア

1. アンケートを自治会内で実施するにあたり、地域住民に周知したい内容も掲載し、学びの視点とアンケート実施を同時に実施することができている
2. 避難行動要支援者制度を中心に自主防を実施
3. 定期的に防災訓練をしている。内容は AED の使い方、初期消火訓練、集団移動訓練など
4. 市内に居住する多数の防災士の活用が必要ではないか

⑥周辺自治会との連携

現状

1. コミュニティを通した付き合い。
2. 盆踊りや、お祭りで協力している。自治会を越えた協力が不可欠
3. 赤田環境対策委員会を持っている。赤田どうしでの話し合いの場。
4. 自治会としての歴史が違うから周辺自治会との連携はできない。
5. 連携することで、カバーするエリアが広くなることが問題。
6. 大規模自治会では、他地区との連携は検討していない
7. 自治会内に3つのコミュニティがあり管理運営に困難をきたしているが、自治会を分解することは検討しない。
8. 消防団は団員が減っていることもあり協力している。
9. 合同防災訓練の実施
10. 自主防災会役員同士の日頃からの連携重要
11. 地域の伝統行事やお祭りなどコロナ化を経て廃止や縮小になったものも多いため、自治会を超えて地域で協力して次代に継承する必要あり

⑦自治会未加入者からの費用徴収

1. 費用徴収はしていない。
2. 消防費と防犯等のみ徴収
3. ごみステーションの管理を自治会とは別で、近所の自治会に入っていない

人たちが管理している人達がいる。

4. 自治会加入率が40%くらい、自治会離れが強い。
5. 賃貸マンションからの一部運営に関する自治会補助あり
6. アパートなど賃貸住宅の方に未加入者が多い
7. 高齢者が、役員を受けること、草刈や清掃に参加することが難しいと言って自治会を抜けてしまうことがある
8. 自治会のメリットを感じないという声がある。説明しても理解しない
9. 役員や作業の免除は範囲が難しい。人によって重要なことの価値観が違う
10. ごみステーションも自治会に入っていない、管理も協力していない人たちにも使わせないわけにはいかない、不公平感がある
11. 役員免除して自治会を抜けないようにすると、みんな免除してほしいと言われてしまいそう
12. コロナ禍以降、自治会の楽しみを作りにくくなったことも未加入者を増やしているかもしれない
13. 未加入者から半額だけ徴収しようというアイディアもあったが、それだとみんな半額だけ払って自治会抜けるという人が出てしまうということで立ち消えた
14. 80 歳以上は役員や、作業を免除できるということにしている。(やりたい人は参加可能)
15. アパートの管理会社に一括して自治会費を徴収してもらっている
16. アパートなど賃貸にお住まいの方は自治会費を安くしている
17. 班からは抜きたいが自治会には留まりたいという方は会長管理
18. 新住民の自治会加入が課題
19. 未加入者対策は班長任せになっているので、人脈等を活かした協力が必要

⑧地区社協の設置について現状

1. 存在自体知らない
2. 自治会として対応しておりあえて設置する必要はない
規模の大小もあり単独ではなく自治会の連合体で組織するのが現実的
3. 自治会役員、民生委員、支え合い推進委員等で対応
4. 地区社協の意味が理解不能社会福祉協議会 OB がいる自治会は、福祉の重要性を理解し充実を図ってきた。自治会機能として福祉に重きを置き運営。
5. 地区社協として運営している意識はなかったが、見守り事業として実施していることが、結果、地域福祉だと感じた。

⑨その他(意見)

1. 役員はよく助け合い頑張っている。
2. 育成会と連携しているが、育成会の方々が協力的である。

3. 7人の顧問(地元の名士)がいて、地域の意見をまとめることに協力してくれている。
4. 敬老会を開くことが、高齢者の見守りになっている。
5. 大家さんが、まとめて自治会の入会手続きをしてくれている。

アイデア

1. アパートは会費を安くしている。(一棟1万円)
2. 住宅地を分譲する事業者が購入者をまとめて、自治会に入るように手配してくれるケースがある。
3. 自治会のメリットは加入者どうしが協力し合えること。
4. ゴミステーションの管理清掃は、利用者が1週間ごとに、当番を回している
5. 新規分譲地は不動産売買の条件で自治会入会

課題

1. 独居老人が自治会を抜けてしまうことがある。(より共助が必要なのに)
2. 自治会のメリットが分かりにくい。
3. 世帯の世代が変わる時、(親から子に世帯主が変わるタイミング)自治会を抜けてしまう世帯がある。
4. 班ごと、示し合わせて、自治会を抜ける人がいる。
5. 70歳になると、自治会の役員や班長を断ることが出来るようにしている。
6. 自治会未加入者でもゴミステーションは使うし、外灯も使っている。不公平感が出てしまう。
7. 自治会加入促進条例を周知徹底してほしい
8. 加入促進のマニュアルがほしい
9. 加入しない主な理由
10. 加入するメリットがない
11. 加入しなくても困らない
12. 役員をやりたくないので加入しない
13. 子育てが終わると退会してしまう
14. 一人が退会すると連鎖的に退会者がでる
15. 2年間自治会活動を休止していたが、自治会がないことで困ることも出てきて今年、3世帯で自治会を復活させた。地域内には10世帯ほどある。
16. 何をするにも、高齢化が大きな問題。
17. 行政がなんでもしてくれることで、自治会の必要性が下がっている。
18. 行政サービスは、自治会に入っても入ってなくても一緒である。差をつけてくれないと自治会に入る人がいない。
19. 自治会に入っていないと育成会に入れないルールにしている。だが、子どもが小学校を卒業すると自治会も抜けてしまう。
子どもの数が減り、何をやっても盛り上がらない。
20. 市民一斉美化運動は自治会加入者のみでやっている。自治会に加入していない人も市民なのだから、自治会とは別にして市民全体で行うイベントにできないか。
21. ごみ集め(美化運動)とお祭りのようなイベントを一緒にできないか。

22. 自治会を介さない市民みんなに届く連絡手段はないか。
23. 防災無線がなくなり、情報がみんなに伝わりにくくなった。
24. 防災ラジオは持っている人にしか伝わらない。
25. テレビの難視聴エリアの、光回線の維持管理にお金がかかる。
26. 一度自治会を抜けてしまうと、もう一度復活入会を勧めることが難しい。
27. 高齢者の見守りは、エリアも狭く世帯も少ないので、避難行動要支援者の情報が無くても出来ている。
28. 自治会に入ってくれない避難行動要支援者を自治会で助けることに不満がある。
29. 市の情報発信であるLINEやメールは高齢者は使えない。
30. 街路灯について、商店会の減少に伴い、街路灯の維持管理に困難をきたしており、防犯灯の一部を担う現在の役割に自主運営では財源の困難さを生じる。街路灯は地域のお荷物になっている。
31. 敬老会事業について、敬老会に関する個人情報のリストと、避難行動要支援制度に関する個人情報リストなど、自治会で管理する個人情報の管理が大変であるので一元化してもらいたい。

2班 放課後児童クラブについて

〈放課後児童クラブを利用して感じること〉

①良かった点

1. 児童クラブ敷地のグラウンドが広い。
2. 児童クラブの先生方がしっかりしている。
3. 学校の校庭なので外遊びに設備が使える。
4. 学校の様子はわかりにくいですが、児童クラブの様子は、親も見られるのでわかりやすい。
5. 学童クラブの先生は話しやすいし対応が早い。
6. 子供をきちんと叱ってくれる。
7. 喧嘩があっても片方に加担せず、結果を保護者に知らせてくれる
8. 学校は紙の連絡が無くなったが、児童クラブは紙ベースなので解りやすい。
9. 先生方が親切で感謝している。
10. 親子のイベントがあるのが良い。
11. 学童は独自のことができるのが良い(畑で食べ物を作っている)。
12. 子どもたち同士で話し合っ運動をしている
13. 子どもの叱り方についても、子どもに考えさせることが大事のようにやっている。
14. 子どもの感情的な態度に適切に対応してくれている。

②不満な点

1. ワンオペが多い
2. 職員の年齢層が高い。
3. 先生と子供の距離が近いとめ、大人をなめる児童もいる(あだ名で呼ぶなど)

4. 児童クラブでケガが多い。
5. 児童クラブで喧嘩がある。
6. 子どものチェックリストが多すぎる。
7. DXが進められているが、アナログの部分も必要。
8. 施設のキッチンが狭い、(サンドイッチ作りなどに不便)
9. キッチンが学童によって大小様々、古いのもあり、新しくして欲しい。
10. 施設によりイベントが様々、(遠足があるクラブもあるが自分のクラブではない)。
11. 高学年になるとお友達が減る、(子供が行きたくなくなる)
12. 学童の先生だから子どもは本音を出せる。だけど乱暴な言葉は正して欲しい。
13. 副食費が高くなった。月 5000 円、年間で 6 万円

〈学童児童クラブに要望すること〉

1. 学童時クラブのイベントがもっとあるとよい。
2. 書類が多い、もっとデジタル化を進められたら良い
3. 若い職員さんを配置してほしい。
4. 若い職員が少ない。給料が低いせいか。働く生きがいのある職場にすべき
5. 職員報酬を生活できる位のものにしてほしい。
6. 夏休み期間は給食があるとありがたい。
7. お弁当を学童の中で作れるようにして欲しい。
8. 長期休暇中など子ども食堂は利用できないか。
9. スクールバスの対応もしてほしい。

3班 観光のブランディング化について

〈日本遺産について〉

1. 日本遺産になることが目的ではなく、観光資源としてどのように活用していくかが重要。また、日本遺産の活用については、観光業だけでなく、業界を超えた横の連携をすることで地域の価値を高めていくことが必要。
2. 那須野が原は広いので、回るルートやアクセス、観光客がどのような興味を持っているかも把握し、考えていくことも重要。
3. 日本遺産を知らない人(市民)が多いのではないかな。まずは、市民に知ってもらうために、学校などでも日本遺産について知ってもらう機会が必要。
4. 名所の見直しが必要。例えば、外国人向け、日本人向けなど。また、ベンチなどの整備しながら、観光客に歩いていただくルートづくりが必要。ルートづくりの中では宿泊施設の紹介なども必要。
5. 今の旅行者の傾向は、地域の文化を保全するために貢献をする「高付加価値旅行」がインバウンドを中心に注目されている。しかし、解放されている施設が少ない。例えば、松方邸などは自由に見て回れないので、解放されている施設が増えると良い。

6. ガストロノミーウォーキングと絡めて日本遺産を活用してほしい
7. 一般公開されていない文化財に対して通年で拝観できるような取り組みを考えてほしい
8. 広域的に取り組んで日本遺産の周知 PR に努めることが必要
9. 日本遺産に対する認知度がまだまだ低いので観光業にとってはあまり魅力を感じない部分が非常に多く感じる
10. 日本遺産とインバウンドと連携に努めて観光客誘致につなげて行くべきだ
11. クラウドファンディング等を活用して日本遺産の啓発や PR に力を入れるべきだ。

〈道の駅について〉

1. 道の駅の活用について、子どもに向けた教育や体験などに開放するスペースがあっても良い。また、観光客や市民に向けて食や体験で道の駅同士で連携が取れるようなことも必要。
2. ブランドとは売り手と買い手の需要と供給が上手くマッチしていくことが重要なので、那須塩原ブランドは、もっと独自性や個性が必要。例えば、各道の駅で個性や独自性が必要で、この中で道の駅同士の連携が必要。那須塩原ブランドを掘り下げる意味で、学ぶなどの体験が必要。
3. 道の駅の特徴がなく、スーパーのまねごと(産直)をやっているように見える。例えば、温泉など遊んで一日過ごせるような、施設も必要。
4. 道の駅は産直のイメージがある。地元の人に地元の自慢できる観光資源が必要で、そういう資源を再認識することで価値を高めていくことが必要。
5. 那須塩原がブランドとして認知されているのであれば、宿泊施設は、地元のショーケースと言われているように、食や歴史などを通して、いろいろな体験をしてもらうことで、地元経済に貢献できる道の駅が求められている。
6. 明治の森黒磯を今後どのように展開していくのかわからないので、情報共有やコンセプトをしっかりと周知するべきだ。
7. 地元や観光協会との連携不足があるので心配である。
8. 6次産業化に向けて商品の開発に向けて人材不足にならないか心配である。
9. もっと充実して、稼げる道の駅にならなくてはいけない。
10. 20年後30年後を考えて長期的視点で取り組むことが必要だ。

〈食について〉

1. 塩原では、かぶとだいこんを各旅館で売り込んでいるなど、宿泊施設が横で連携し地域の中で統一性を持って、地域の観光アイテムにしていくことも必要。

2. 那須塩原のどこでも食べられる「開拓鍋」みたいなものが必要。例えば、宇都宮でいえば餃子のようなメニューがあったら良いと思う。
3. 那須塩原に来たら、あれ食べようというものがあると良い。生産者などが見える化できるものがブランドになって行くのではないか。農業と観光業者と観光客が地域を支えるものがブランド化に必要。
4. 食のブランドは、塩原大根などの素材をブランドにしたものと料理して提供できるブランドがあるが、那須塩原の素晴らしい宝は「水」なので、「水」も観光資源に加えてみてはどうか。また、観光客に大根を収穫してもらうなど体験もしてもらうとブランド価値を高めていくと思う。
5. 那須塩原では、料理がブランドになりやすいが、今後は、生産者が見える産品をブランド化していくことが必要。
6. 地元食材を今後も積極的に使用する
7. ミルクスタンドの設置を期待したい
8. ワイナリーの支援と拡充と普及
9. 6次産業化の補助や新商品開発の後押しが欲しい
10. バターの活用を検討
11. フードロスの取組。

〈その他〉

1. 観光業者は、今日明日のお客様を大切にするだけでなく、20年後、30年後も見据えて観光資源を育てていくことで、子どもたちへどのようにバトンタッチするかが重要。今後も意見交換会などの機会を続けてほしい。
2. 西那須野インター付近に JR バスの停留所の設置で観光客の誘致を望む
3. 人口減少対策に積極的に取り組んでもらいたい。
4. 黒磯観光協会の NPO 法人化で様々な取り組みを展開したい。

3 考察

今回の議会報告会及び意見交換会“なしおふれあいトーク”は、議会報告と意見交換を対面式で、常任委員会による3班体制で1班は3回、ほか2班は1回実施し、全体で68名の方にご参加をいただき有意義な意見交換会の場となった。

今回は各常任委員会の研究テーマについての意見交換を行い、また、参加者を増やすために、各種関係団体に出向いたり、那須塩原市役所にお越しいただいての議会報告会及び意見交換会となった。

第1部の議会報告は、定例会議の審査内容を一部抜粋、質疑応答は行わず報告のみとし、第2部の意見交換は、各班ごとのテーマについて、多くの参加者から意見聴取できるよう意見交換の時間を多くとるよう工夫した。

今回の意見交換で得られた意見や要望、また各種団体等で抱える課題等については、各班のテーマ研究につなげるための資料として、今後の常任委員会活動における政策提言などに活用していただきたい。

今回においても、議会活動を市民に説明する責務を果たし、充実した意見交換が開催できたことに関係各位に感謝を申し上げて考察とする。